

特255

276

眞光寺由緒

附宗祖略傳

納本

兵庫

眞光寺



始





真

光

寺

由

緒

附宗祖略傳



特 255  
276

眞光寺由緒目次

寫 眞

宗祖一過上人靈廟 尊觀法親王御尊像  
一過上人御名號 和田御崎嶋出現金銅觀世音菩薩立像

卷頭

はしがき

一

起源と沿革

二

住持と寺格

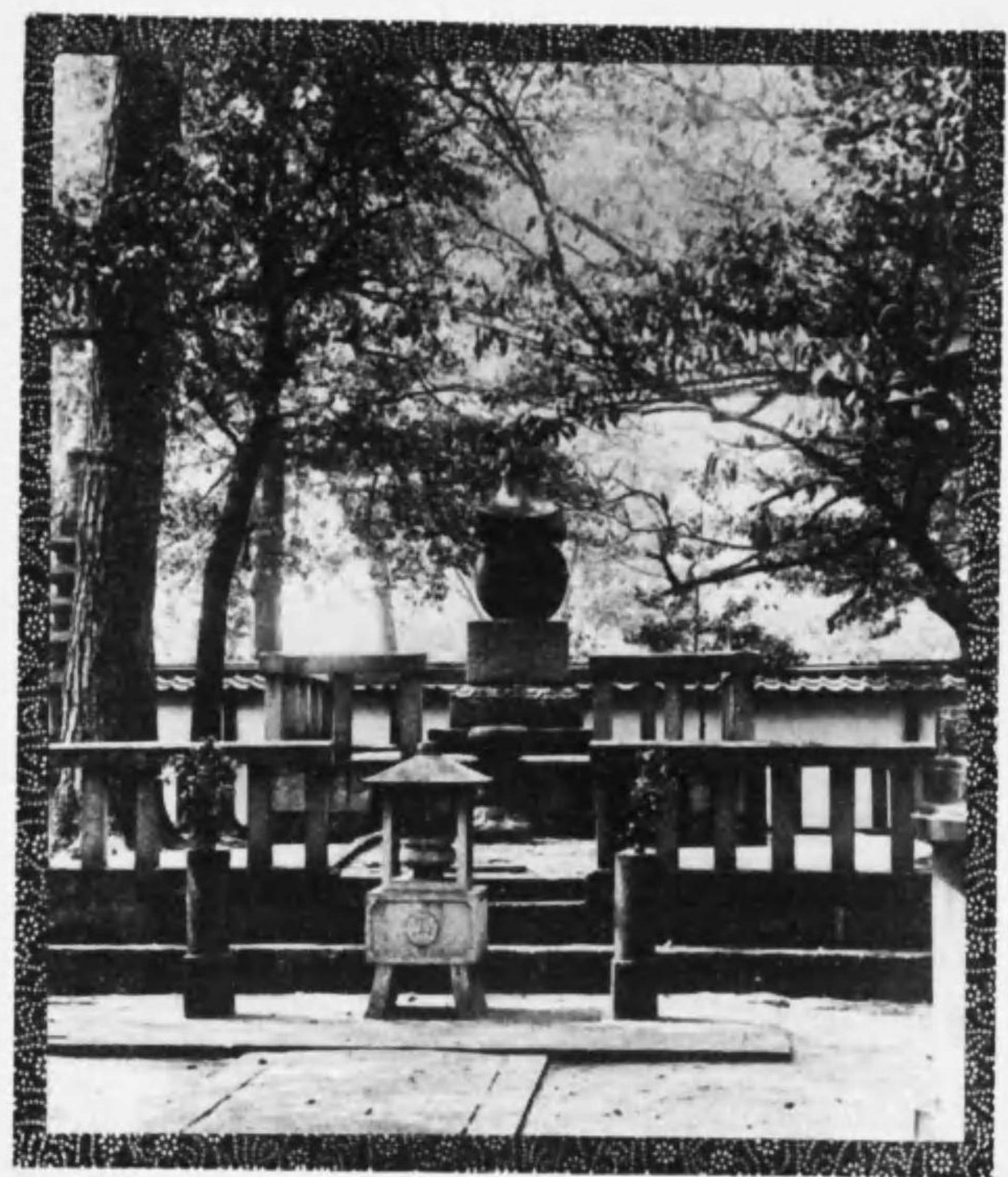
五

堂宇と什寶

七

宗祖略傳

十四



宗祖一過上人靈廟

和田御崎嶋出現 金銅觀世音菩薩立像



一遍上人御名號



尊觀法親王御尊像

# 眞光寺由緒

はしがき

時宗大檀林西月山眞光寺は兵神隨一の巨刹で、兵庫の繁華街に六千六百餘坪の寺域を占め、表に毗盧舍那の大佛像を中心として亀の池を配し、大門、本堂、阿彌陀堂、客殿、書院、庫裡、觀音堂、鎮守堂、虚空藏堂、經藏、鐘樓等々大小幾多の堂宇に、塔頭五ヶ院を有し、輪煥の美は境域の雄と相俟つて眞に一大淨刹なり。

此の淨刹こそは時宗の宗祖として全國幾十萬の信徒に渴仰される、念佛遊行の元祖一遍上人智眞圓照大師御入寂の靈場である。

湊川の遺跡に建武の昔を思ひ、清盛塚に平安の夢を偲ぶものは、又來

二  
つて當山に詣で、鎌倉時代東西に遊行して神勅念佛を弘通された捨聖一  
遍上人の遺風を仰ぐべきである。

### 起 源 及 沿 革

當山は往古和田御崎島觀音の靈場として、六條天皇の勅を奉じ僧貫沐  
が創建せる觀音堂に始まるが、伏見天皇の御宇、時宗々祖一遍上人が諸  
國遊行の途次、此處の觀音堂に留錫して念佛勸進せられた。ところが正  
應二年八月二十三日朝化緣盡きて當山に御入寂遊ばされたので、遺弟や  
結縁の人々等相謀つて、堂前の松樹の下に尊骸を茶毗し、五輪の石塔を  
造立して靈骨を納め奉つた。

上人御他界後は他阿彌陀佛眞教上人が、衆に推されて遊行二代を相續  
し、教團を統率せられ、宗門興隆の基礎を固められたのであるが、其節

當山に念佛の大道場を建立し、宗祖一遍上人の影像を安置し、勤行奉侍  
怠りなきやうせられた。

後播州の守護赤松氏が檀越となり、四圍八町の境内を布施し、地領  
三百石を寄進して、本堂觀音堂、御影堂等を造營し大に寺門を興隆した。  
時に二祖他阿上人は、伏見天皇に奏して寺號を乞ひ、眞光寺と名づくる  
勅額を拜受するに至つた。

次で遊行四代吞海上人當山留錫の時、後醍醐天皇に奏して西月山と號  
する勅額を賜はり、以來西月山大道場眞光寺と稱する様になつた。此頃  
寺中に二十八の塔頭あり規模頗る雄大であつたが、其後度々の兵火に遇  
ひ堂宇や勅額の本紙等の重寶は烏有に歸した。

慶長年間に至つて漸く本堂を再建し、鎮守堂、觀音堂等も追々に營繕  
せられ、九の塔頭と共に稍舊觀に復した。寶永年間遊行四十七代唯稱上

人の時には、東山天皇より寺號勅額の本紙を賜はり、四十八代賦國上人の時に監寺の賞山和尚に命じて御影堂を再建し、一山殆ど整備した。

享保十四年十二月に不幸回祿の災あり本堂、觀音堂等焼失せるも、翌年四月早くも復興された。文政十年春大門が新築され、明治に入つて十三年に經藏が出来、二十一年に三十三觀音を築山に設け、二十七年に小松宮、北白川宮兩殿下の御臺臨を忝ふし、全年小松宮殿下より宗祖靈廟の御染筆を賜り、又翌二十八年には山階宮殿下より法王閣、大悲殿等の御染筆を拜受した。

大正年間には工費十數萬圓を投じて客殿等を改築し、虚空藏堂を建て、昭和八年には本堂の大改修を行ひ塔頭を改建して一山全く面目を改めたのである。

### 住持と寺格

當山は宗祖上人の御廟所なるを以つて、本來は其の承繼者である二祖他阿眞教上人みづから奉侍して勤行供養せらるべきであるが、旅から旅へと念佛を勧め歩くのが宗祖上人の遺風である故、止むなく住持の僧を置いて上人に代つて靈廟に奉仕せしめられた。かくて宗祖上人を開基と仰ぎ代々住持して第六代に至つて、南朝門流の尊觀法親王が當山に入り給ひ在職八年に及ばれた。

尊觀法親王は、龜山天皇の皇孫、常盤井式部卿恒明親王の第三皇子で、南朝第二代後村上天皇の猶子とならせ給ふた方で、深勝親王と申上げた。南北朝の頃、南風競はず南朝一統の宮多くは佛門に歸し給ふに、深勝親王も又時衆に入り遊行八代渡船上人に就て得度し給ひ、法號を尊觀法

親王と稱せられた。そうして應安二年より永和二年に至る迄、眞光寺に住持せられたのである。此時より當山に菊桐金紋の挾箱や網代の輿を用ふるやうになつた。

尊觀法親王は當山を出られて後遊行十二代を相續され、念佛勸進の旅を續け給ふに及んで、當山は遊行上人兼帶の寺として住持の僧も置かれず、爾來三百五十年程は塔頭の僧が輪番に奉侍したのである。かくて寶永七年遊行四十八代賦國上人の時、積年の弊現れ寺法亂れて來たので、監寺の僧として上人の院代を置かれたのである。故に當山では今日も尙住職たるべき人を御院代ごいんだいと稱するのである。

斯様に當山は一宗に於て特別の格式を以つて扱はれたので、一般も此寺を呼ぶに大道場寺と稱し慶長年間片桐市正の證文や、文政十三年大門に掲げられた紀州大納言の額にも大道場となしたのである。現在寺に接

する小學校を道場校といふも又此處に由るのであるが、明治二十六年四月に一宗としては大檀林と稱することに定められた。

### 堂 宇 と 什 寶

一、本 堂 享保十五年の再建にして昭和八年修補す、宗祖上人の等身大御木像を御本尊とし、脇壇に二祖他阿上人當山六代遊行十二代尊觀法親王の御木像等を安置す。正面に奉掲するは伏見帝の勅額なり。

一、阿彌陀堂 正徳五年再建、此は宗祖御入寂後間もなく創建し宗祖上人の御木像を安置せるところなるも、御影堂即ち今の本堂新築と共に御像を移して、彌陀三尊佛を安置す。現在此處に納骨の設備あり。本來當山根本の堂宇にして二重屋根の



形式頗る莊重なり。表に奉掲する法王閣の額は山階宮晃親あきら王殿下の御染筆なり。

### 一、觀音堂

明和九年再建せるものなるも、創建は當山の開基以前にして、御本尊は六條天皇の御代に和田岬の沖合より出現せられし閻浮檀金の聖觀音にして、此浦は當時逆瀬多く舟人の漂死する者が多かつたので天皇の詔を奉じ此の堂を造立して安置し和田御崎嶋觀音と稱し此築地浦一帶の守護としたのである。適々縁あつて時宗々祖一遍上人が此堂に留錫遷化せられた爲め、當山が起つたので、實に法縁の厚い堂である。今は福原西國第三十三番の札所として知られてゐる。奉掲する大悲閣の額は山階宮殿下の御染筆である。

### 福原西國第三十三番御詠歌

みな人のつひにいらんもこなたへど

月おちかゝる西の山の端は

### 一、鎮守堂

明和九年再建、熊野大權現を奉安す。宗祖上人は紀州熊野證誠殿に參籠し大權現の神勅に依に當流の大安心を得たまふたのであるが、後上人の遊行せられるところ必ず熊野大權現が護念し給ふ故に當山又鎮守として尊崇するのである。

### 一、虚空藏堂

大正年間建立、茶所兼用ではあるが御本尊の虚空藏菩薩は弘法大師作と傳へる秘佛である。

### 一、經藏

明治十三年新築、黄檗版一切經の外、重要宗典の版本を多數納めてゐる。中央の金銅佛は元京都七條道場金光寺の重寶佛である。

### 一、鐘樓

明和九年再建。

一、大門 文政十年改築、雄渾なる建築手法は一山建物中の壓卷である。

一、客殿 大正年間改築、佛間中央正面に奉掲するは東山天皇の勅額である。

一、書院 文化年間再建、前庭の築山芝生等市中に在るを思はしめず。

一、庫裡 明和九年再建、大正年間改築。

一、塔頭 陽徳院、龍藏院、修善院、寶積院、陽徳院の五ヶ院あり、龍藏院には古き由緒あるも略す。寶積院は現在裁縫手藝の塾を開き陽徳院には日曜學校、慈愛會等の施設あり。

一、通用門 大正年間改築

一、宗祖靈廟 五輪塔は正應二年の造立なるも、元祿年間改造して今の御廟所を築く。中に茶毗所の遺趾あり。

一、遊行柳 遊行十九代尊皓上人は諸國修行の砌、文明三年に下野國那

須郡蘆野の里で、朽木の柳に結縁し、名號を以て柳の精靈を濟度せられたことは、謠曲遊行柳の一篇に廣く知られてゐるが、安永三年十月浪華の俳人佐々木泉明が其の因縁を辿り、その柳の一枝を宗祖御示寂の當山に移し植へたもので、句碑一基を建て、ゐる。

植て又杖ついで見る柳かな

一、遊行四十四代尊通上人墓

上人は宗祖靈廟の修築に力を盡し、元祿八年五月當山に示寂。外に花道宗匠未生翁一甫及び青陽齋の墳墓あり。

一、大佛 寶曆十年九月造立

毗盧舍那佛 丈六坐像 青銅佛 大阪長谷川久左衛門作

- 一、宗祖上人御繪傳(國寶) 紙本、三井行顯彩色畫 十軸
- 二、宗祖上人御着衣 一領
- 一、全 阿彌衣あみえ 一領
- 一、全 袈裟 一丁
- 一、全 金磬 一個
- 一、全 持蓮華 二本
- 一、紫雲 御名號 紙本 宗祖上人御筆 一幅
- 一、柳化度御名號 紙本 尊皓上人 筆 一幅
- 一、和歌(古地布賀波)こちふかほ 紙本 菅公 筆 一幅
- 一、水鏡菅公眞影 紙本墨畫 菅公 筆 一幅
- 一、柿本人麿像 絹本彩色畫 土佐信實筆 敦光讚定 家歌 實筆 三幅
- 一、二十五菩薩來迎圖 絹本彩色畫 惠心僧都 筆 三幅

- 一、柿翁海門之圖 絹本彩色畫 牧心齊 筆 三幅
  - 一、五百羅漢像 紙本彩色畫 智頓居士 筆 三十三幅
  - 一、龍淵台名家書帖
  - 一、如來還御諸國王供養圖 紙本彩色畫 兆殿司筆 一幅
- 其他略。

## 宗祖上人略傳

その昔源平二氏の争覇に、みやびやかな平安朝の夢は破れ、ものはれを知らぬ荒武者共に天下の權が握られる頃、日夜血なまぐさい風吹いてさなきだに人々の心荒々しくすさむ時、打重なる天災地變に愈々末法の到來を思はせ、修羅の巷もかくやとばかり生きたる心地もしなかつた。世を擧げて非常時の鎌倉時代、期せずして教界の偉人が輩出した。法然、親鸞、榮西、道元、日蓮等相次で現れ各々蘭菊の美を競つて、迷へる人々の精神的自覺を促した。わけても易行易修の念佛門は、時代の要望に適ひ燎原の火の如く一般庶民階級を風靡して行つた。ところが盛になるにつれて異義異見を立つる者次第に多く、一流一派互に正邪を争ひ、直裁簡明なる筈の念佛までも、煩はしい理屈となつて人々は其の歸

趨に迷ふやうになつた。此時善惡を争はず、自力他力を論せず、信不信共に如來の慈光に浴せしめる純一無雜の念佛を勧むる爲め、日本六十餘州の津々浦々を遊行化益せられたのは捨聖すてひょうと稱せられた一遍上人其人であつた。一遍上人は四條天皇の延應元年二月十五日(約七百年前)伊豫國道後に生誕され幼名を松壽丸と申した。父は河野七郎通廣なごひろ、遠祖は饒速日命で、彼の物部氏と同祖で(姓氏錄)代々土地の豪族であつたが、祖父通信が承久の亂に勤王の兵を擧げて以來、幕府の壓迫を受け家運次第に衰へて來た頃上人が成育された。七歳の時近くの得智山繼教寺に入つて勉強されたが、十歳の時母上の死に遇ひこれを縁として父の命に隨ひ出家せられた。そうして三年餘天台の教を縁教律師に學ばれたが、後轉じて築の紫聖達といふ淨土の學匠の門に入り十二年の間専心勉強せられた。二十五歳の時父の逝去に依つて久々に歸國されたが、一日子供の遊戯

を見て悟るところあり、それよりは學解を捨て専ら空也上人を先達とし、その芳躅を慕ひ各所を巡遊せられた。信州善光寺に參詣された時、善導大師の二河白道の教に感應あり、郷里に歸り一草庵に籠つて三年の間世間と交を絶つて専念稱名を勵まれた。これに依て殆ど念佛の御安心を証得せられたのであるが、文永十一年更に熊野大權現の神勅を蒙るに及んで遂に絶對他力の妙味を悟了せられた。此時感得せられた頌に

六字名號一遍法 十界依正一遍體

萬行離念一遍證 人中上々妙好華

これより後は日本六十餘州を縁に任せて遊行し、信不信を論せず淨不淨を嫌はず、専ら念佛のおふだを賦つて衆生を化益し給ふこと十有四年、九州一圓より奥州の果まで、

旅ころも木の根かやの根いづこにか

### 身の捨てられぬところあるべき

さて身命を惜しまず念佛勸進の旅を續けられたのである。かうして熊野成道以來三度目の郷土巡錫を終へ淡路を化益し明石に出で、加古の教信沙彌の遺跡を訪ひ、餘命の幾何もないことを知つてそこに臨終せんものと定められたが、兵庫の津よと信徒の迎へがあり、熱心に御化益を乞願ふので、遂に兵庫に移り、當山の觀音堂に留錫せられたのである。時に正應二年七月、

八月二日遺誠の法語を示され、十日の朝二三の經典を隨逐する書寫山の僧に渡し、其他御所持の一切の書籍を集め、阿彌陀經を讀みながら手づから焼き捨て、「一代の聖教皆つきて南無阿彌陀佛になり果ぬ」と仰せられた。

かくて八月二十三日晨朝の勤行中禪定に入るが如くに往生せられた。

## 春秋五十一

かねて『没後の事は我門弟におきては葬禮の儀式をどこのふべからず、野に捨てけだものに施すべし。但在家の者結縁の志を致さんをばいろふに及ばず』と申されてゐたが、信者の人々等皆御孝養申し度由願出でたので遺命に任せ、觀音堂の前の松のもとに茶毗し奉り、五輪の塔を建て墓所を莊嚴し奉つた。

上人は常に『我化導は一期ばかりぞ』と申されてゐたが、上人示寂後遺弟や信徒の人々は皆、上足の他阿彌陀佛眞教上人を推して故上人に變ることなく化益し給はんことを乞ふので、遂に他阿彌陀佛は二代目の上人として念佛勸進の旅を續けられた。

他阿彌陀佛はもと鎮西流の學者で宗祖上人よりも年上であつたが、深く宗祖上人に歸依し常時隨逐給仕せられた有徳の上人で、宗祖寂後は教

團を統制し、殿堂を各所に設け宗門の基礎を定められた。宗祖御入寂後六百五十年餘、代々の上人相次で法灯を相續し、宗祖の遺風に隨ひ念佛の算を賦つて全國を遊行せられるので、代々遊行上人と申す様になつた。尙宗祖上人に就ては國寶の御繪傳數種あり就て見られ度、その法語は一遍上人語録と題して坊間に流布してゐる。

謂ふに、一代を通じ破れ衣に藁草履、一切の慾と虚偽とを捨て、我が思ふ道眞しぐらに、鐵をも通す堅き信念を以て精進せられた、聖一遍の遊行の生活こそ現代人の學ぶべき道ではなからうか。

稱ふれば佛も我もなかりけり

南無阿彌陀佛 南無阿彌陀佛

とは上人が現に生きて、教示を垂れさせ給ふ御詞である。

(了り)

昭和十三年一月二十日印刷  
昭和十三年一月廿五日發行

(非賣品)

神戸市兵庫區須佐野通一丁目二八

編輯兼發行人 石倉一光

印刷人 小野楠雄

印刷所 神戸市兵庫區須佐野通一丁目二七八番附敬

印刷所 五典書院

不許複製

發行所 神戸市兵庫區須佐野通一丁目 眞光寺

終

